

栗山町立栗山中学校における土曜授業の取組内容

栗山町立栗山中学校では、家庭や地域等との関わりを大切にした「地域とともにある学校づくり」の充実を重点に、年2回の土曜授業に取り組んでいます。

■ 年間スケジュール ■

回	実施日	内容	教育課程上の位置付け
①	11月11日	○外部講師を招聘した道徳の時間の授業 ○「避難所設営シミュレーション」による防災ボランティアの授業	道徳の時間 特別活動
②	12月9日	○外部講師を招聘した道徳の時間の授業	道徳の時間

■ 取組の概要 ■

外部人材の活用など、土曜日に実施することの利点を生かした効果的な取組

第1回目は、外部講師の講演による道徳の時間、「避難所設営シミュレーション」を活用した特別活動を実施しました。



【道徳の時間での全体交流の様子】



【スライドでの説明の様子】

道徳の時間では、北海道南西沖地震を体験した外部講師による講演を行いました。地震による津波被害の体験等の話を通して、先人達の生命を守る防災の知恵や工夫が引き継がれることにより、自分達が守られてきたことを生徒に気付かせるとともに、自らも引き継ごうとする態度を育みました。



【グループ協議の様子】



【協議シート】

特別活動では、本校を避難所と想定した「避難所設営シミュレーション」を行いました。避難者の配置や刻々と変わる状況への対応策等をグループで考えることを通して、生徒に避難所運営に必要な知識を体得させるとともに、的確に判断し対処する能力の育成を図りました。

登別市立幌別中学校

(平成29年度 年6回実施)

学級数8 (うち特別支援学級2) 生徒数194名

【本校における土曜授業のねらい】

- ・外部人材を積極的に活用し、体験活動や講話を通して豊かな心を育成する。
- ・保護者や地域の人材等を効果的に活用し、「コミュニティ・スクール事業」との連携を図る。
- ・体験的な活動を充実させ、教育活動に多様性と機能性をもたせる。

① 「コミュニティ・スクール事業」と連携した授業

○ ふれあい農園における豊かな体験活動(田植え、稲刈り、収穫祭)

ねらい	体験活動を通して、小学生や地域の方とコミュニケーションを図るとともに、自然や食を大切にしようとする態度を養う。
成果	各学校のCS事業と関連を図り、幌別中学校区(小2・中1)の小中連携の取組として定着し、地域との触れ合いの一助となっている。
課題	実施年度により、天候に左右されることが多く、今年度の田植えは、悪天候で日曜日に順延し、小雨の中の作業となった。



○ 地域と学校が一体となった災害対策合同(津波)避難訓練(9月23日)

ねらい	生徒自身が、地域になくってはならない存在であることを自覚し、自らの命を守ろうとする意識を高めるとともに、地域のために進んで貢献しようとする態度を養う。
成果	生徒の自主的な活動を通して、防災の基本である自助の意識を高めるとともに、地域の一員としての自覚を深めることができた。
課題	実施時期が、学校祭や部活動の大会等と重なることが考えられるため、学校間において日程を調整する必要がある。



② 外部人材を活用した授業

○ 命を大切にする教室(11月11日) ※法務省人権啓発活動地方委託事業

ねらい	講師の実話に基づき、犯罪被害者等の思いや立場を理解するとともに、自分や他人の命の大切さを理解し、いじめ、暴力をなくすことについて、強い意志をもとうとする態度を養う。
成果	<p>【生徒の感想から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでは、自分のことなんて、どうでもよいと思っていたり、ニュースで死亡事故のことを目にしても、ただ聞き流すだけだったりしたけれど、今回の話を聞き、自分の大切な人と置き換えて考えてみると、自分は命に対して無関心すぎたと思った。 ・今回の話を通して、命の尊さや大切さについて深く考えることができた。 ・これからは、命について、より深く考えて行動したり、周りや今の自分を大切にしたりして生きていこうと思った。
課題	講師の都合により、事前打合せの時間が十分に確保できないことがある。 毎年実施して、生徒が同じ話を聞くよりは、3年に一度など、実施時期を工夫し、生徒の心に響く取組にする必要がある。



③ 今後、予定している授業

- 「コミュニティ・スクール事業と連携した授業」・・・茶道教室(第3学年)
- 「外部人材を活用した授業」・・・認知症サポート講座(第1・2学年)

「土曜授業」実践事例（平成 29 年度 年間 6 回実施）

北斗市立大野中学校

1 実践事例 「土曜授業を活用したケイタイ教室」

(1) ねらい

- ・トラブルの温床となる携帯電話の使用について指導する。
- ・携帯電話やインターネットの適切な利用の仕方について理解を深める。

(2) 概要

本校では、「情報モラル教育の全体計画」のもと、情報モラルの指導に計画的に取り組んでいる。

本校に限らず、近年、無料通信アプリによる生徒間のトラブルが、増加していることや、トラブルがいじめにつながる危険性が高いことから、昨年度から、LINE 株式会社に講師を依頼し、ケイタイ教室を、土曜授業を活用し開催している。

生徒の利用率が高い無料通話アプリ「LINE」を教材にしながらの講演のため、生徒は実感をもって講師の話を受け止めていた。

個人情報の取り扱いについて、簡単に友達の写真をネットに公開することが、友達を危険にさらしてしまう可能性があることや、トラブルが起こる原因が、同じ言葉でも人によって受け止め方が異なるということ、生徒は学ぶことができた。



2 実践事例「土曜授業を活用したピア・サポート集会」

(1) ねらい

- ・ユニークなルールじゃんけんを通して、全員で楽しさを共有できる。
- ・共同活動を通して、連帯感を深め、話し合いを活発に行うことができる。

(2) 概要

今年度最初の土曜授業の 4 月 15 日、授業参観の一環として、ピア・サポート集会を実施した。昨年度から生徒会書記局が主体となつての活動を進めている。

今年度の生徒会書記局が考えたメニューは二つ。一つ目は、「あいこじゃんけん」。じゃんけんをしてあいこになったらハイタッチし、次の相手を探すもので、学級学年の枠を超えて、できるだけ多くの人と交流できるよう工夫されたものである。入学して中学校に慣れていない新 1 年生にとっては、他の小学校から来た同級生や、見知らぬ顔の上級生と触れ合ういい機会となった。

二つ目は、「名画づくり」。学級ごとに作られたグループを中心に、生徒会書記局が用意したテーマに基づいて、グループのメ



ンバー全員で一枚の切り絵を作成した。切り絵を作成するときには、無言で行う。前の人の作業がどのような意図で行われたかを理解し、次の人にどのようにつなげるのかを配慮しながらの作業をとおして、周りとは協調し、協力する大切さを学び取った。

新入生が入学したばかりの4月にピア・サポートに取り組むことで、中1ギャップの未然防止にもつながり、いじめや不登校防止の基盤となる生徒同士のよりよい人間関係が、生徒自らの手で作られていく。

3 実践事例「土曜授業を活用したリングプル回収」

(1) ねらい

- ・ ボランティア→リングプルを集めて車椅子と交換し施設に贈呈。
- ・ 地域との交流→住民との会話、ふれあいを通して、大中学生のがんばる姿を評価してもらおう。
- ・ 一つのことを学校全体で取り組むことでの達成感を得る。

(2) 概要

本校では、平成17年度から校区内でリングプル回収を行っている。

回収したリングプルは、北斗市社会福祉協議会を通して車いすに交換し、今年度まで計10台の車椅子を市内の老人福祉施設などに寄贈している。

土曜授業を活用して、リングプル回収のお知らせと生徒がメッセージを書いたチラシを校区内に配付している。事前に地域の方から、「今年はいつ取り組むのか」等の問い合わせもあり、毎年恒例の活動として、地域の方々に周知されていることを生徒たちは実感している。

回収の日は、学年ごとの担当地域をグループに分かれて、リングプル回収を行った。回収するときに、協力していただいた各家庭や事業所の方々に、協力していただいたお礼のメッセージを手渡した。

回収したリングプルには、毎年地域の方々からのメッセージが添えられているものもあり、心温まるメッセージに、活動の手ごたえと次年度の活動の充実を感じている。今回の活動で集まったリングプルは800kgになった。

地域の環境を改善し、美化に努めることを目的に始まったこの活動は、現在、福祉・ボランティア活動の一環として、土曜授業を活用し実施している。

リングプル回収を通して、生徒も教師も、地域とつながり、地域をよりよくしようという思いがさらに高まるよう、活動の充実を図っていきたい。



【成果と課題】

- 地域の方々とは直接ふれ合えるよい機会となっている。
- 土曜授業の実施によって生まれた余剰時数を学力の向上に向けた取組を実施する時間としている。
- 部活動の大会等に重なると出席できないことがあり、関係の団体との調整が難しい。

「土曜授業の広場」実践事例

稚内市立稚内東中学校

○ 体験活動を取り入れた学習活動の充実

【地域活動（古紙回収） 4月29日（土）、9月23日（土）】

春と秋の2回実施している「古紙回収」では、地域の方との対話をとおして、生徒自身が地域住民であることを自覚するとともに、地域への感謝の気持ちをもてるようにすることをねらいとしています。

また、地域の方にとっては、生徒と触れ合うことで、本校の教育活動を理解していただくとともに、応援していただける関係をつくることにつながっています。



○ 外部講師を活用した学習活動の充実

【「誕生学」「AED講習会」 6月3日（土）】

「誕生学」とは「生まれてきたことが嬉しくなると、未来が楽しくなる」をコンセプトに、生徒に「自分自身の産まれてくる力」を伝え、自分の生まれもつ力を再認識させることで、自尊感情を育むことを目的としています。この日は外部講師を招聘し、第1学年の生徒を対象に、講話をして頂きました。

また、「AED講習会」は、第3学年の生徒を対象に行いました。講師として招いた救命救急士の説明を真剣に聴き、ダミーを使って実際に体験をしました。命の大切さを学ぶとともに、万が一の場面に直面したときのことを想定し、生徒は真剣に取り組んでいました。



陸別町立陸別中学校 (平成 29 年度 年間 10 回実施)

□本校の土曜授業のねらい

地域人材を活用した地域に関わる学習の充実により、生徒が地域への認識を高めるとともに、地域に対する愛着を深める。

地域で働く人を知る

取組の概要

【第1学年 総合的な学習の時間】

・地域の旅館の料理長を招き、日本料理の特徴や地域で働くことよさについての講義を実施

取組のポイント

学校支援地域本部の人材バンクを活用して、地域で生き生きと働く人材を講師として選定しました。

【生徒の感想】

・料理人の方々の思いが、料理にこめられていることや、仕事をする上で、周りの人に感謝していく気持ちの大切さなどを地域の方から学ぶことができました。



【日本料理や仕事に関する講話を聞く様子】

体力の向上に取り組む

取組の概要

【全学年 保健体育】

・地域のダンス講師を招き、体力の向上や全校生徒の交流を目的にした講習会を実施

取組のポイント

保護者・地域住民への参加を呼びかけるとともに、親子での体力づくりの推進について啓発しました。

【生徒の感想】

・地域にダンスのフロの方がいることを初めて知りました。保健体育の授業でフロの方に教わり、いい経験になったので、活動の成果を文化祭などに生かしていきたいです。



【全校生徒でステップの基本を学ぶ様子】

地域の資源や環境を知る

取組の概要

【第2学年 理科】

・「銀河の森天文台」の職員や大学の教員を講師に招き、陸別の夜空や環境に関する講習会を実施

取組のポイント

「銀河の森天文台」の職員や大学の教員、大学生等多くの方を講師に招き、グループ活動できめ細かな学習指導を実施しました。

【生徒の感想】

・陸別町の空気が澄んでいることや、それによって星がきれいに見られることを再確認しました。普段、見ることができない宇宙線を見ることができたことも、貴重な学びになりました。



【宇宙線を見るための実験に取り組む様子】

【生徒アンケート結果】

全国学力・学習状況調査生徒質問紙における「地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある」の設問について、土曜授業の取組を開始した平成 27 年度から平成 29 年度にかけて、「当てはまる」と回答した生徒が増加し続けています。

